

平成30年度 12月定例記者会見 会見録

日時 平成30年12月20日(木)午後2時~2時35分

場所 市役所2階第1特別会議室

(市長)

はじめに、さきほど閉会いたしました12月定例会議についてでございます。11月19日から32日間、ご審議をいただき、提案いたしました案件につきまして、ご議決をいただきました。議員の方々からは、次期総合計画策定に向けた取組や、教育環境の整備に向けた取組など、多岐にわたる質疑等をいただきました。指定管理者の指定については、各常任委員会での結果を重く受け止め、議案を撤回いたしました。今後見直しを行いながら、適切な対応ができるよう、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

次に、麻溝まちづくりセンターと公民館の移転整備についてです。これらの施設は、麻溝地区の皆様生活に密着した拠点施設として、昭和54年に開館いたしました。施設の老朽化と、隣接する県道52号の拡幅に伴い、新たな場所に移転・整備したものでございます。整備にあたっては、地域の代表者等で構成された検討委員会によりご検討いただき、利用者のニーズや利便性、災害時の対応など、地域の拠点としての機能の向上を図ったところでございます。開所日前日の2月11日(月・祝)には、地域主体での式典等が開催される予定となっております。未永く、地域の皆様に親しまれる施設にしていきたいと思います。

さて、本日は、今年の締めくくりの会見でございますので、一年間の主な出来事を振り返ってみたいと思います。

1月は、相模原市内に練習拠点のある青山学院大学 陸上競技部が、正月恒例の箱根駅伝で、4連覇を達成するという偉業を成すとげ、晴れやかな1年のスタートとなりました。市政においても、様々な取組を進めてまいりました。3月には、JR相模原駅前にある米軍基地の一部返還地において、東西道路が開通し、地域の方々の利便性が向上するとともに、「さがみはら新都心」の実現に向けて、前進することができました。また、緑区の青根地域には、新たに、区役所出張所と公民館、消防署の3つの機能を集約した施設を設置いたしました。東京オリンピック・パラ

リンピックに向けては、自転車ロードレース競技の誘致の実現や、カナダのボートチームが事前キャンプを行うことが決定したほか、ブラジルの水泳チームとバレーボールチームのテストキャンプが実施されるなど、本格的な取組もスタートいたしました。災害関連では、大阪府や北海道での地震、西日本における豪雨など、日本各地で大規模な災害が発生した年でもありました。本市としては、被災地へ職員を派遣するなど、復旧に向けた支援を行うとともに、災害への備えとして、関係機関と連携し、「水防演習」や「総合防災訓練」を実施するなど、防災力の強化にも努めてまいりました。10月の台風24号では、市内数か所で土砂崩れが発生いたしました。幸いにも人的被害はありませんでしたが、道路の通行止めなど、青根地域に大きな影響を及ぼしております。市道につきましては、12月4日に暫定開通いたしました。国道413号については、来年3月末の暫定開通を目指して、引き続き全力で取り組んでまいります。

さて、今年の漢字でございますが、年頭会見で発表したとおり、健康の「健」といたしました。今年、給付型奨学金制度の創設や小児医療費の助成対象者の拡充、新生児の聴覚検査助成やブックスタート、セカンドブック事業の開始など、子どもや若者が将来に向けて夢や希望を持ち、健やかに成長できる取組を重点的に推進することができたことから、健康の「健」、「健やか」という文字といたしました。

来年も引き続き、市民の皆様一人ひとりが将来に夢や希望を持つことができ、安全で安心して心豊かに暮らすことができるよう全力で取り組んでまいります。

報道機関の皆様には、この1年間、多方面にわたりご協力いただき、誠にありがとうございました。

私からは以上でございます。

(記者)

市長から今年を漢字で表すと「健」というお話がありましたが、来年は市長選も控えており、体が資本の年だと言えらると思うのですが、市長は日頃から健康についてどのようなことに心掛けているのですか。

(市長)

考えたことを行動に移す。健康であればこそ発想力が沸き、行動力もついてくると思っております。日頃の健康管理で気遣っていることは、あまり太らないことです。様々な公務に従事する中で、体重が増えると疲れやすくなりますので、適度な体重を維持することを絶えず意識しています。そういったことを心掛けながら、多様化する市民ニーズにしっかり対応できる体の維持に努めております。また、普段はあまり睡眠時間をとることができないので、1時間でも2時間でも、しっかりと体を休めることを心掛けております。そのほか、植木を切ったり、雑草を取ったり、身体を動かすことを続けており、これが健康の秘訣だと思います。私は、50キロ位の重さの物を動かすこともできますし、庭仕事をしていると熱中症をよく心配されますけれども、8時間でも9時間でも、暑い中で継続して作業できます。

(記者)

神奈川県や横浜市では今年の10大ニュースを発表しており、横浜市では成人式における晴れ着のトラブルをあげていました。先程、市長から相模原市の1年を振り返っていただきましたが、市長が考える相模原の今年一番のニュースは何ですか。

(市長)

ひとつに絞ることは難しいのですが、スポーツ関係では、先ほどもお話しました、オリンピックの自転車ロードレース競技の会場に決まったということが、大きな出来事だと思っております。オリンピックは、子どもの夢や希望、憧れ、そういったものに繋がっていくものであり、一過性のものではなく将来に繋がる事業ということで大きな意味のあるものだと思います。また、冒頭にも申し上げました青山学院大学陸上部の箱根駅伝4連覇もありました。正月早々、全国民が注目している大会で、相模原市内にキャンパスがある青山学院大学が偉業を達成してくれました。スポーツのほかには、小惑星探査機はやぶさ2のリユウグウ到着も大きなニュースだと思います。今後、無事にミッションを果たせるよう、市民の皆様と一緒に応援してまいります。市政においては、子育て環境や教育環境の整備を重点的に取り組ませてもらいました。特に給付型奨学金制度を創設したことにより、高等学校に行きたいという意欲があるにも関わらず、経済的な事情で

進学を諦めなければならなかった子どもたちが、高等学校等へ通うことができるようになったことは、私としまして、すごく嬉しく思いました。また、教育環境も変わろうとしています。学習指導要領が改正され、2020年から英語教育が小学校3年生から必須となり、5年生からは成績を付ける教科になります。これは大幅な教育環境の変化だと思いますし、これに対する事前対応もしっかりとらせていただきました。また、先生たちが厳しい労働環境におかれているという声も聞いており、先生の働き方改革についてもしっかりと取り組ませていただきました。これらの取組は、すぐに効果は表れないかもしれませんが、そういった取組をPTAの方々などから評価いただけたことは、大変嬉しかったです。そのほか、災害対策につきましても、ハザードマップの作成や、いざ災害が発生した際の公助だけでなく、自主防災組織をはじめとした自助、共助による対応など、地域ぐるみでの取組がかなり前進し、大規模なものも含め災害に対しての対応能力が備わった1年であったと思っております。

(記者)

本日閉会した市議会について質問します。今回、市長が提案した議案のうち、指定管理者に関する4議案を撤回するという異例の事態になりました。これはいずれも、今年10月に市の監査委員会から、指定管理においてずさんな事務処理があったと指摘された事業者を、新たに指定管理者に指定しようと市議会に提案し、常任委員会で否決され、議案を撤回するという事になったものだと思うのですが、市長はこの議案の撤回について、どのようにお考えですか。

(市長)

監査における指摘事項を承知しながら、新たな施設の指定管理者に提案したのではないかとのご指摘だと思うのですが、実際の手続きを時系列で説明いたしますと、まず、問題となっている4つの施設を含め、指定管理者の指定について議案を提出いたしました。その議案の提出後に環境情報センターの監査結果が示されたことから、指摘事項については、指定管理者にしっかりと指導するとともに、指定管理者から提出された改善報告書をもとに是正の確認を行い、今後は指定管理者としてしっかりと運営できるものと判断いたしました。しかし、各常任委員会では

不適切な事務処理が行われていた事業者が指定管理者として本当に相応しいのかという厳しいご意見をいただき、そういった意見を踏まえ、再度精査し決断いたしました。今後、もっとも大切なことは、来年の4月1日から市民の皆様滞りなくご利用いただけるよう、指定管理者を選定しなければならないということです。また、もっとも反省しなければならないこととして、これまでのモニタリングで実施していた指定管理者の契約内容の確認だけでなく、会計処理についても、しっかりとチェックが出来る体制を考えていかなければならないということです。そういった見直しをしっかりと行うよう、指示したところです。

(記者)

今の質問に関連しますが、このままですと4月からの指定管理者が未定ということになります。今後のどのように指定管理者を指定していくのかなど、予定を教えてください。

(市長)

様々な方法が考えられると思うのですが、現在、担当課において手続きの方法について精査しております。確実に行わなければならないのは、指定管理者を決定し4月1日からしっかりと施設を運営していかなければならないということであり、市民にご不便をお掛けしないようにしなければなりません。4月まで時間も限られておりますから、全力投球で、適切な指定管理者が選定できるよう、事務を進めていきたいと思っております。

(記者)

撤回した4つの議案のうち、2つは次点の候補があり、残り2つは次点候補もなく、おそらく再募集になるかと思いますが、そのあたりはどのように対応されますか。

(市長)

先程申し上げましたように、詳細な手続きについては所管の部署で検討を進めておりますが、お話をいただきましたとおり2つの施設については、1者のみの申し込みであったことから、再募集ということになるかと思えます。次点候補がいる施設については、まずそこにお話しをして、指定管理者を引き受けていただけるということであれば、再度議会に提案させていただくという方法も考えられます。一定の基準に基づき選定した事業者ですから、次点の候補も、それ以外の

方も納得のいく説明をし、議会にもご理解をいただき、4月1日には適切な指定管理者のもとで施設を運営していきたいと思っております。

(記者)

議案の提出時期はいつになるのでしょうか。

(下仲副市長)

未定です。

(記者)

指定管理者制度では、施設としての運営内容がしっかり行われていけばそれで良いというように思えるところがあるのですが、今後は市として、もう少し首を突っ込み、契約以外のことでも、指導していくことなども考えているのですか。

(市長)

指定管理者制度では、市民サービスの向上に繋がるよう、料金設定等の運営上の細かいことも、あらかじめ調整をさせてもらっております。今回、会計上の処理において帳簿への記載ミスや記載漏れなどが散見されましたが、我々としては、そういった部分もしっかりやっていただける企業、団体であるからと、指定管理者を信頼して契約を締結してきました。これまで行ってきたモニタリングでは、指定管理制度に移行した目的でもあるサービスの向上、利用のしやすさ、新しい提案がされるか、そういう内容がしっかり出来ているかどうかを見ることに重点があり、現金出納簿と実際の現金が合っているかどうかや、支出したものの裏付けとして領収書が合っているかなどは調査しておりませんでした。今後は、実際に日常的な事務の流れや、現金の受払いなど、必要に応じて我々がチェック出来る体制をしっかりと作っていく必要があると思っております。

(記者)

国が水道事業の民営化について法整備をしましたが、これから先、相模原市として水道事業について何かお考えですか。

(市長)

合併前の旧相模原市域を含む市域の大部分は、神奈川県企業庁が水道事業を担っており、旧

津久井郡の一部地域において、県営水道の管路が行き渡ってない地域があり、市や地域の組合による簡易水道や小規模水道で運営しています。神奈川県には、全地域を県営水道にしていきたいという我々の要望も踏まえ、水道の環境整備を進めていただき、最終的には神奈川県企業庁の水道事業で担っていただきたいと思っております。そのようなことから、市といたしましては、法整備が進んだからといって、水道事業を即民営事業に移行しようという考え方は持っておりません。まず、水の供給の安定化ということを考え、津久井地域も市全体で同じシステムで運営できることを目指しております。

(記者)

相模原市では、水道インフラの運営を県営に一本化しようということと、民営化については、横浜市や横須賀市が表明した様に、生活に密着したインフラは公営とした方が安心ということでしょうか。

(市長)

外国でも水道事業が民営化されたが、水質が悪くなかったり、料金が高くなったりということから、公営に戻った事例もあると言われております。日本でも民営化を進める地域も出てくるかもしれませんが、水道の運営が統一されていない地域もありますので、前段としてそういった部分を進めること、市民に安全な水を供給するためにはどのような運営がもっとも適しているのかということをしっかり捉えていく必要があります。津久井地域の一部では、起伏の多い地形であることから水道管が県営水道の基幹に繋がっていないところがあります。これは下水道の問題も同じであり、津久井地域の一部では下水道管が繋がっていないことから高度処理型浄化槽による処理を行っており、将来的には下水道を繋いでいくことを検討していかなければなりません、技術的な課題も多く難しい状況ではあります。

以 上